

施策・基本事業評価表

優先度：成果＝中。財源＝低。●社会教育課、中央公民館、図書館

番号	施策名	施策の対象	施策のねらい	区分	施策の成果指標	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	25年度	26年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
5-3	生涯学習・スポーツの推進	市民	自己表現、自己充実、地域貢献を図るため、市民が継続的に学習やスポーツを行っている。	成果	生涯学習・運動を習慣化している市民の割合	40.1	41.7	40.8	41.9	43.5	42.7	47.0	↑	45.7	43.0	40.8	↑	不調	生涯学習・運動を習慣化している割合は、40.8%で、平成23年度から減少を続け、前年と比較しても2.2ポイント減少した。分野別に見ると、軽スポーツは4.6ポイント増加、スポーツは2.7ポイント増加。他の分野も大きく減少した分野はない。このことから一人で複数の分野を実施している人が増加している反面、何も実施していない人が増加していることがうかがえる。年代別では30代が24.3%で最低で、前年からの減少が一番大きい(9.2ポイント)のは70代以上であるが、それでも46.5%となっている。	平成27年5月に第3次生涯学習推進計画を策定しており、本計画の確実な実施を図り生涯学習の推進を図っていく。また、スポーツ推進計画を28年度中に策定するため、平成27年度から策定委員会を立ち上げ、策定に向けた協議を始める。さらに、整備中の「北部拠点施設」(仮称)をあらたな生涯学習・スポーツ推進の拠点施設として効果的に運用できるよう検討するとともに、既存施設の運用等についても見直しを図っていく。

番号	基本事業名称	基本事業の対象	基本事業のねらい	区分	基本事業成果指標	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	25年度	26年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
01	市民が主体の生涯学習推進体制の強化	市民	市民が、生涯学習・スポーツを始めるきっかけや、自立して継続的に学習できる環境を整っている。	成果	人材バンク登録者数(人)	72	75	78	76	82	88	87	140	93	86	83	140	不調	26年度中は、新規登録者が4名、抹消者が7名で83名の登録となった。	利用のきっかけとなる「学びあい体験講座」を開催する。
				成果	自主学習団体登録数(団体)	698	731	732	703	760	826	832	800	852	736	554	850	不調	自主学習団体登録数は554団体で、前年度より182団体減少した。減少の主な要因はサンコア利用登録団体の整理を行った結果、184団体を名簿から削除したためである。	中央公民館講座や出張所講座、人材バンクの学びあい体験講座の際に、受講生が、その後、自主運営団体として活動するよう働きかける。
02	生涯学習・スポーツ情報の提供	市民	市民が、生涯学習・スポーツの情報を十分に収集することができる。	成果	情報提供の量や内容に満足している市民の割合(%)	91.6	91.7	90.4	90.9	92.5	92.8	92.1	↑	92.3	92.4	92.9	↑	横ばい	満足している市民の割合は、92.9%でわずかずつではあるが増加し、目標値にも近い。しかし、回答の82.9%は普通であり、満足、どちらかといえば満足を合わせても10.0%であるため、生涯学習ちくごに対する市民の関心が薄い結果とも読み取れる。また、生涯学習ちくごの満足度と生涯学習・スポーツ情報提供の満足度は必ずしも一致するとは判断できない。	生涯学習ちくご、広報ちくご、生涯学習ガイドブック、中央公民館出張所情報紙などを利用した、効果的な生涯学習・スポーツ情報のあり方・改善方法を12月までにまとめる。

番号	基本事業名称	基本事業の	基本事業のねらい	区分	基本事業成果指標	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	25年度	26年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
03	生涯学習・スポーツの機会の提供	市民	市民が、様々な生涯学習・スポーツの機会を利用し、活発に活動している。	成果	生涯学習参加者数(人)	13,627	13,837	10,733	12,097	9,796	10,436	10,169	15,000	11,154	11,318	12,639	12,000	順調	講座等参加者数は12,639名で目標達成となった。しかし、増加の要因は中央公民館が主催した市制施行60周年記念の花づくりコンクール「スケッチ部門」への参加者が多かったため、次年度以降にはつながるものではないため、目標達成とはしなかった。	平成27年度から勤労者家庭支援施設を中央公民館に統合したため、講座等も中央公民館で一括して開講することとなった。組織が1本化したことで、より効率的な講座等を企画していく。
				成果	市の施設を利用してスポーツを行っている件数(件)	—	—	—	—	—	7,823	7,825	—	7,710	8,100	7,646	8,200	不調	利用件数は、前年度より454件減少し7,464件となった。減少の主な要因は学校開放が710件減少しているためである。施設別の利用件数は学校開放2,526件、市民の森テニスコート2,094件、窓ヶ原体育館1,612件、水田コミュニティセンター1,414件となっている。	学校開放を利用していたスポーツ団体の活動低下が見受けられる。スポーツ推進計画を策定していく中で、推進していくスポーツの種目や推進方法などを検討していく。
				成果	生涯学習やスポーツの機会が十分にあると思う市民の割合(%)	78.5	79.6	80.8	82.1	82.7	83.2	85.0	↑	83.8	84.9	84.5	↑	順調	満足している市民の割合は、84.5%でほぼ目標値の85%に近い。しかし、回答の75.1%は普通であり、満足、どちらかといえば満足の合計9.4%に対し、不満どちらかといえば不満15.3%の方が高い。また、今後の重要度では力を入れる必要はない(あまり含む)2.3%に対し、力を入れてほしい(できれば含む)は33.3%となっており、今後も満足度を高める取り組みが必要である。なお、満足度の年齢による大きな差異はない。	平成27年5月に第3次生涯学習推進計画を策定しており、本計画の確実な実施を図り生涯学習の推進を図っていく。また、スポーツ推進計画を28年度中に策定するため、平成27年度から策定委員会を立ち上げ、策定に向けた協議を始めるとともに、スポーツ推進の担い手となる筑後市体育協会の組織体制の強化を図っていく。
04	生涯学習・スポーツの活動拠点の充実	市民	生涯学習・スポーツを推進するための施設を充実することで、市民の活動の場が確保されている。	成果	生涯学習・スポーツ活動をする施設が充足していると思う市民の割合(%)	71.8	71.9	73.9	75.6	76.5	78.2	80.7	↑	79.1	80.1	80.5	↑	順調	満足している市民の割合は、80.5%でほぼ目標値の80%を達成している。しかし、回答の67.1%は普通であり、満足、どちらかといえば満足の合計13.4%に対し、不満どちらかといえば不満19.4%の方が高い。また、今後の重要度では力を入れる必要はない(あまり含む)2.8%に対し、力を入れてほしい(できれば含む)は39.0%となっており、目標達成とは評価しなかった。	整備中の「北部拠点施設」(仮称)をあらたな生涯学習・スポーツ推進の拠点施設として効果的に運用できるよう検討するとともに、既存施設の運用等についても見直しも図っていく。また、老朽化が進む、サザンクス筑後、サンコア、水田コミュニティセンターなど既存施設について計画的な改修を行っていく。
				成果	サザンクス筑後自主事業で行われた芸術文化活動の鑑賞者数(人)	10,492	11,406	19,188	12,560	13,817	14,380	13,320	11,500	13,613	15,559	12,450	15,000	横ばい	鑑賞型事業を始め、参加型事業、育成型事業など多彩な事業に取り組んでいる。鑑賞者数は12,450名と前年より3,109名の減少となったが、施設改修による約3か月間の休館が主な減少要因のため不調とはしなかった。	文化振興公社とサザンクス運営において、定期的な協議を持つことにより、その中で市民の鑑賞増につながる方策等についても協議していく。
				成果	図書館の貸し出し冊数	104,548	123,363	142,335	176,028	217,100	244,759	248,496	—	279,007	259,097	293,761	300,000	順調	貸し出し冊数は293,761冊となり、ほぼ目標値に近づいた。アウトリーチ事業や図書館講習会などの取り組みの成果と思われる。	テーマ展示の定期的な入れ替えや貸出ルール順守の徹底による効率的な貸し出しの推進などで来館者への貸出増を図る。また、来館が困難な利用者に対応するため、アウトリーチサービス対象施設数の増大を図る。
				成果	サザンクス筑後で芸術鑑賞をした市民の割合(足を運んで)(%)	31.6	31.7	30.3	27.4	26.8	29.5	25.0	↑	25.7	23.2	25.0	↑	不調	サザンクス筑後で芸術鑑賞した市民の割合は25.0%で、前年度より1.8ポイント増加した。年齢別で見ると20歳代が12.3%で最も低く、65歳以上では30%を超えている。また、地域別では二川・羽犬塚校区が高い。	文化振興公社とサザンクス運営において、定期的な協議を持つことにより、その中で市民の鑑賞増につながる方策等についても協議していく。